

新シリーズ 『ピアノ音楽の楽しみ方』 (9)

” 名曲の名演奏を聴き比べながら、ピアノ音楽の歴史を学ぼう！ ”

第九回

ドイツ・ロマン派の推進者
シューマンによる文学と音楽の融合

19世紀前半のロマン派ピアノ音楽は 相次ぎ輩出したほぼ同年齢の3人の天才ピアニストによる切磋琢磨とそうした動きに呼応するかのような楽器としてのピアノの著しい進化により全盛期を迎えることとなります。ポーランド生れのショパンはフランス、中でもパリのサロンに集う貴婦人たちを優雅な音楽で魅了し、ハンガリー生れのリストはウィーン、ロンドンを手始めに全ヨーロッパの大ホールで華麗な超絶技巧を駆使しながら観衆を圧倒。この2人に対し今回取り上げるシューマンはドイツのツヴィッカウ生まれ、幼少時からピアノと文学的才能を開花させますが、猛練習が祟って右手負傷後はピアニストになることを断念、以降作曲と音楽評論に専念することとなります。従い生地に近いライプツィヒ、ドレスデンなどを拠点とし国外に出掛けることはあまりなく、珠玉のようなピアノ作品のほとんどは師ヴィークの長女クララとの結婚までの時期に集中します。

今回は 彼のピアノ作品では最も知られた「子供の情景」と名作「クライスレリアーナ」及びロマン派最高のピアノ曲と称される「幻想曲」の3作品を取上げつつ、ルービンスタイン、ギーゼキング、ホロヴィッツ、ハスキル、ポリーニ、アルゲリッチなどシューマンを得意とする奏者による演奏で聴き比べてみます。特に最初の2作品は標題つき小品による組曲で文学と音楽の融合というロマン派の理念を目指したものとされますが、3曲何れもシューマンらしくバッハ以降の対位法などドイツ本流の古典的要素を踏まえながら、その中に特有の深い幻想性と叙情性を感じさせる古今のピアノ作品の傑作群です。是非 一緒にお楽しみいただきたく。

日 時 / 9月25日(日) 13:30~15:45

場 所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 高橋 敏郎 シリーズ 全10回(予定)

参加自由・入場無料

問い合わせ / 090-5422-5479 脇田 <http://www.aafc.jp/>